

## ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

大阪市及びGECは2013年度から継続的にホーチミン市の気候変動事務局や天然資源環境局、その他関連部局等との協議を行ってきました。

その中でホーチミン市からの支援・協力の要望や、優先度の高い取り組みなどが紹介されたのを踏まえ、ホーチミン市の低炭素都市化を推進するに当たり、大阪市等我が国における知見・経験や先進的な環境技術を移転できるもの等を「プロジェクト案」として提案しております。

ホーチミン市の低炭素都市形成事業においては、大阪市と民間事業者等による「チーム大阪」で官民連携に基づいて、具体的なプロジェクトを形成・実施していくことを目指しています。

このチーム大阪の事務局であるGECでは、これまで京都議定書における「クリーン開発メカニズム(CDM)」のプロジェクト実現可能性調査の事務局の経験から、現在もJCM実現可能性調査の事務局及びJCMプロジェクト設備補助事業の事務局を務めており、温室効果ガス削減プロジェクトに関して幅広くご相談に対応させていただきます。

説明会での紹介・説明では、プロジェクトの内容詳細を深く把握するための時間が限られますので、本プロジェクト案に記載されているプロジェクトの内容を吟味いただいた上で、後日、下記ご相談窓口(GEC)にお問い合わせ頂ければ幸いです。

来年度にFS調査等を実施することを想定した場合、年内に枠組みを固める必要があるため、勝手ながらまずは**11月末まで**にご相談させていただきたく存じます。プロジェクト開発には綿密な準備が必要であることから、**出来る限り早期にご相談いただけますと、より質の良い案件に仕立てることができますので、是非早い時期にご相談ください。**

なおメールをお送りいただく際には、興味をお持ちのプロジェクトで想定される課題、期待する内容など、自由にご意見を記入いただき、お送りください。

### <ご相談窓口>

「チーム大阪」事務局

(公財)地球環境センター(GEC)

大阪本部 国際協力課 ホーチミン班



担当: 田保(たぼ)、元田(もとだ)

Tel: 06-6915-4126 Fax: 06-6915-0181

Email: [hcmc-lc@gec.jp](mailto:hcmc-lc@gec.jp)



GECにご来所いただき、面談によるご相談も随時承ります。

# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体 化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企 業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
I-1	土地利用	土地利用の規制・運用	都市開発の前提となる法や条例規則等の整備と運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>法律の運用(事業者との連携による公共貢献の促進)</li> <li>条例規則等の整備</li> <li>用途地域の指定による建築物規制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム</li> <li>2013 気候変動に適応する都市住宅建築技術の開発とガイドライン作成及び、各地区町村人民委員会都市管理部の研修機関設置(建設局)</li> <li>2013-2014 気候変動に適応する都市整備計画の開発とガイドライン作成及び、各地区町村人民委員会都市管理部の研修機関設置(建築計画局)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な施設配置の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【都市計画法】</li> <li>・開発許可手続き規則</li> <li>・都市景観条例、規則</li> <li>・駐車施設の附置条例、規則</li> <li>【建築基準法】</li> <li>・各種建築制限条例、規則</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「都市計画マスタープラン(2010年策定)を実行に移すために条例等が必要」</li> <li>「開発のための法律はあるが運用方法のノウハウが無い」</li> </ul>
I-2	土地利用	適切なインフラ静脈施設の配置	インフラ静脈施設など都市開発に必須となる施設を先行して適正に配置する。	衛星4市、郊外区第4区		<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な施設配置により、運搬や処理などを効率的に行うことができる。</li> <li>開発の際に、先にインフラを整備を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画により適切な施設配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「処理施設の配置について知りたい」(2014.3.来日研修 @大阪市)</li> </ul>
I-3	土地利用	モデル地区の開発(10分野を統合的に扱う重点地区等)	10分野の気候変動に対する緩和策を統合的に実施する重点地区の設定	第4区、Nha Be県	2014-2015 HCMC第4区及びNhaBe県の気候変動統合マスタープランの開発(気候変動対策局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の課題への対策が急がれる地区について先行してかつ集中的に対策を講じることができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「第4区、Nha Be県については、気候変動対策アクションプランを作成しモデル地区としたい」(2014.4.16 ホーチミン市との政策対話 @大阪市)</li> </ul>
I-4	土地利用	大規模緑地の適正管理	公園等の大規模な緑地帯の間伐更新や捕植などの適正な管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Nha Be県</li> <li>カンゾー</li> </ul>	2014-2015 HCMC第4区及びNhaBe県の気候変動統合マスタープランの開発(気候変動対策局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2吸収量の増加</li> <li>生物多様性の確保</li> <li>良好な景観の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模公園の維持管理</li> <li>港湾緑地の維持管理</li> </ul>	

# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
II-1	エネルギー	街区レベル省エネルギーシステム	街区単位において、建物の熱や河川の水を活用したコネジェレーションによる電気・熱を集中管理し、地域内(建物間)で共有するエネルギー効率の高い都市型エネルギー供給システムの導入	河川の冷却水を利用できる場所	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 省エネ、温室効果ガス排出量削減の効果等のビジネスモデルの構築と実施、応用、再生可能エネルギーとクリーンエネルギーの利用と研究、ビジネスモデルの構築(商工業局) ・H25 清水建設 FS報告書	・消費電力の低減によるランニングコストの削減	・中之島地熱供給事業	「生産活動、生活レベルを確保しながら電力使用量の低減をめざすため、適切な省エネルギー技術の導入を進める」 (2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
II-2	エネルギー工業	建物全体のエネルギー改修	省エネ機器及びそれらの制御システムを一括して導入	・オフィスビル ・工業団地 ・公共施設	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 省エネ、温室効果ガス排出量削減の効果等のビジネスモデルの構築と実施、応用、再生可能エネルギーとクリーンエネルギーの利用と研究、ビジネスモデルの構築(商工業局) ・H26 FS実施(清水建設)	・消費電力の低減によるランニングコストの削減		「生産活動、生活レベルを確保しながら電力使用量の低減をめざすため、適切な省エネルギー技術の導入を進める」 (2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
II-3	エネルギー工業	高効率照明の導入	消費電力の少ない蛍光灯、LED灯等の高効率照明への転換。	・人通りの多い街路(例:人民委員会前の街灯) ・消費電力の多い街路 ・オフィスビル ・工業団地 ・住宅	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 各路地に設置されている電力使用量が多い既存の照明システム、街灯から各種省電力照明システムへ交換又は、改修作業の実施(商工業局)	・消費電力の低減によるランニングコストの削減	・設備更新時に各局で導入(公園灯の高効率化、教室・体育館の照明の高効率化、など)	「生産活動、生活レベルを確保しながら電力使用量の低減をめざすため、適切な省エネルギー技術の導入を進める」 (2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
II-4	エネルギー工業	高効率空調機の導入(インバーター化等)	インバーターを搭載した高効率エアコン(空冷ヒートポンプパッケージエアコン)の導入	・オフィスビル ・商業施設 ・工業団地 ・住宅 ・病院	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 都市生活における省エネ、CO2排出量削減方法の提案と実行、各世帯における省エネモデルの構築、キャンペーン活動の実施(商工業局)	・消費電力の低減によるランニングコストの削減	・設備更新時に各局で導入	「生産活動、生活レベルを確保しながら電力使用量の低減をめざすため、適切な省エネルギー技術の導入を進める」 (2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
II-5	エネルギー工業	中小企業の省エネルギー機器(コンプレッサー、モーターなど)の導入	高効率のコンプレッサー、モーター、照明設備、換気設備、空調システムや省エネOA機器等の導入。	・オフィスビル ・工業団地	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 都市生活における省エネ、CO2排出量削減方法の提案と実行、各世帯における省エネモデルの構築、キャンペーン活動の実施(商工業局) ・1000社以上の省エネ診断の結果(ECC)	・消費電力の低減によるランニングコストの削減	・設備更新時に各局で導入	「生産活動、生活レベルを確保しながら電力使用量の低減をめざすため、適切な省エネルギー技術の導入を進める」 (2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
II-6	エネルギー	太陽光発電の導入	CO2排出量の少ない太陽光発電の導入	・商業施設 ・工業団地 ・住宅 ・公共施設 ・未利用地 ・屋根貸し ・ペンタイン市場 ・第4区小学校	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 ホーチミン市における再生可能エネルギー開発計画(商工業局) 2012-2013 100世帯による太陽光エネルギー発電の電力利用実験と研究、応用(商工業局)	・光熱費の削減及びCO2排出削減 ・売電収入 ・購入から維持管理、リサイクル、廃棄までを通したライフサイクルコストでみた場合の日本製機器導入の優位性	・夢洲メガソーラー ・屋根貸し	「家屋、ビルへの太陽光エネルギーシステムの設置」 (2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)

# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
II-7	エネルギー	太陽熱温水器の導入	太陽光を熱として利用し、水を温める装置の導入。	・商業施設 ・住宅 ・第4区病院	2014-2015 HCMC第4区及びNhaBe県の気候変動統合マスタープランの開発(気候変動対策局)	・光熱費の削減及びCO2排出削減 ・太陽光発電に比べ導入費用が安価		・「ソーラーでお湯を作ることも検討している」(2013.10.1 DOSTとの打ち合わせ @DOST) ・「太陽熱は温水利用が有効であると考えており、協力してほしい」(2014.2.14 ワークショップ @HCMC)
II-8	エネルギー 工業	ESCO事業の導入	施設の省エネルギー改修に要する全ての経費を光熱水費等の削減分で賄う事業の導入。 (ESCO事業者は、対象施設の省エネ改修に係る費用を負担し、改修によって削減した光熱水費を報酬として受け取り、投資額の回収を行う)	・オフィスビル ・工業団地 ・公共施設 ・住宅	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 都市生活における省エネ、CO2排出量削減方法の提案と実行、各世帯における省エネモデルの構築、キャンペーン活動の実施(商工業局)	・消費電力の低減によるランニングコストの削減	・「既存市設建築物省エネルギー化方針」に基づきESCO事業等による省エネルギー化を推進(都市整備局等)	「生産活動、生活レベルを確保しながら電力使用量の低減をめざすため、適切な省エネルギー技術の導入を進める」(2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
II-9	エネルギー	省エネガラスの導入	断熱性、気密性の高い窓ガラスを採用することにより、空調システムの効率性をあげる。	・オフィスビル ・公共施設 ・住宅	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 都市生活における省エネ、CO2排出量削減方法の提案と実行、各世帯における省エネモデルの構築、キャンペーン活動の実施(商工業局) ・2013 エネルギーを効果的に使用する建設工事に関する国家的基準(ベトナム国建設省) ・2013実現可能性調査(GEC)	・断熱効果の向上による光熱水費の削減	・CASBEE大阪	「生産活動、生活レベルを確保しながら電力使用量の低減をめざすため、適切な省エネルギー技術の導入を進める」(2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
II-10	エネルギー 健康	屋上・壁面緑化	建物の屋上、壁面に緑化を施すことにより、建物の温度上昇を低減させる。	・新規の大規模建築物 ・第4区小学校・病院	・2014-2015 HCMC第4区及びNhaBe県の気候変動統合マスタープランの開発(気候変動対策局) ・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 気候変動とヒートアイランド現象の関係性と影響、及びそれらが公衆衛生にもたらす影響と背景の研究(保健局)	・土地の狭い市街地に吸収源の確保 ・熱環境改善効果によるヒートアイランド現象の緩和 ・雨水流出の遅延・緩和の効果 ・都市景観の向上 ・憩い空間の創出による暮らしの豊かさの向上 ・空気の浄化(NOx,SOxの吸着等)	・「公共建築物の屋上緑化設置指針」により官民施設への屋上緑化を推進。 ・大規模建築物事前協議の機会に敷地・壁面・屋上緑化の設置を誘導。 ・屋上緑化容積ボーナス制度	「ホーチミン市でも都市部でヒートアイランド現象が起きている」(2014.5.13 GECとDONREとの打ち合わせ @DONRE)
II-11	エネルギー	風力発電の導入	CO2排出量の少ない風力発電の導入	・風力を確保できる場所 ・郊外地域	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 ホーチミン市における再生可能エネルギー開発計画(商工業局)	・光熱費の削減及びCO2排出削減 ・売電収入	・小型風力発電(大阪市立科学館)	「電力供給不足が課題」(2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
II-12	エネルギー	小水力発電の導入	配水池流入水の残存圧力や用水路の水流を利用した、CO2排出量の少ない小水力発電の導入	・配水場 ・用水路	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 ホーチミン市における再生可能エネルギー開発計画(商工業局)	・光熱費の削減及びCO2排出削減 ・売電収入	・水道局で配水池流入水の残存圧力を利用した小水力発電を導入	

# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
III-1	交通	交通需要マネジメント	自動車交通、公共交通の交通需要の適正化を図り、総合的に交通の円滑化を図る。 具体的には、手段・経路の変更、時間の変更、自動車の効率的利用(相乗り、カーシェアリング等)により、交通需要の適正化を図るべく、交通渋滞や代替経路の情報発信、通行等の規制、経路の誘導等を行う。	都心部	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2018 ホーチミン市交通網健全化計画(交通局) 2013-2014 交通エネルギー分野における気候変動適応国家目標プログラムの実現に向けた技術支援策の提案(天然資源環境局)	・交通渋滞の緩和 ・大気汚染の改善	・大阪市駐車基本計画(交通需要マネジメント(TDM)手法の推進) ・相乗り、テレコミュティンクなどのTDM手法を推進することにより、自動車需要の抑制を図る。	・「ホーチミン市では交通政策、交通システムはない」(2013.10.2 計画建築局との打ち合わせ @計画建築局)
III-2	交通	デジタルタコグラフを用いたエコドライブプロジェクト	エコドライブ啓発システムにより、燃料給油量、走行距離、運転行動などのデータを収集・分析する取り組み。	全域	・H25 日本通運FS報告書 ・H26 JCM設備補助事業(日本通運)	・燃費効率の向上 ・交通事故の減少	・エコドライブの実践	・「燃費・積載効率の改善」(2013.10.21 シンポジウム・覚書 @大阪市) ・「デジタルタコグラフなどのITクラウド化を支援してほしい」(2014.2.14 ワークショップ @HCMC)
III-3	交通	地下鉄の建設	地下鉄の建設により公共交通への転換を図る	都心部	地下鉄1号線の建設	・交通渋滞の緩和 ・大気汚染の改善	9路線137.8kmの路線網を有し、228万人/日の利用。(利用促進の取り組み)	「地下鉄の供用は低炭素化につながる」(2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)
III-4	交通	地下街の整備	地下街を整備し、歩行者空間を地下に確保	都心部	地下鉄1号線の建設	・歩車分離による交通渋滞の緩和 ・歩行者の安全確保 ・地下街事業の創出	・大阪地下街株式会社が市内6か所の地下街を管理運営 ・歩行者が安全に道路を横断するためにつくられた。 ・交通渋滞の解決にも寄与。	「電線や配管が混乱しており、人民委員会から地下インフラのマネジメントを義務付けられている」(2014.8.21 ワーキンググループ @REXホテル)
III-5	交通	地下鉄の利用促進	公共交通への転換を図るための利用促進を行う。	都心部	地下鉄1号線の建設	・交通渋滞の緩和 ・大気汚染の改善	9路線137.8kmの路線網を有し、228万人/日の利用。(利用促進の取り組み)	「地下鉄の供用は低炭素化につながる」(2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)
III-6	交通	交通情報の収集・管理	交通需要マネジメントの実施に向けた基礎情報として、交通量や交通渋滞の発生状況、所要時間等の情報の収集・管理を行う。	都心部		・交通渋滞の緩和 ・大気汚染の改善	・概ね5年に一度の割合で市内の一般都道府県道(一部市道含む)以上の道路における交通量や旅行速度、及び道路状況を調査(道路交通センサス)	

# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
III - 7	交通	広域交通管制	交通量や渋滞情報を収集し、信号サイクルを制御することにより渋滞を緩和する。	都心部		・交通渋滞の緩和 ・大気汚染の改善	・概ね5年に一度の割合で市内の一般都道府県道(一部市道含む)以上の道路における交通量や旅行速度、及び道路状況を調査(道路交通センサス)	
III - 8	交通	道路システムの近代化	歩車分離や交通ルールの整備・教育の実施により、交通流の整流化を図る。	全域		・交通渋滞の緩和 ・大気汚染の改善	・地下道の整備 ・ペDESTリアンデッキ	
III - 9	交通	道路整備(交通混雑の緩和)	道路の新設・拡幅による交通容量拡大により自動車交通の混雑緩和、走行性向上を図る。	・第4区 等		・CO2排出量の低減 ・燃料費の低減	・幹線道路や生活道路の新設・改良、橋梁の新設・改築、交通安全施設の整備、道路の補修 ・鉄道と道路の連続立体交差事業、地下歩行者ネットワークの整備	
III - 10	交通	バスダイヤ、路線の拡充	バスのダイヤ、路線を拡充させ、公共交通の利便性を図る。	都心部	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2018 ホーチミン市交通網健全化計画(交通局) ・H26 FS実施(日建設計総合研究所)	・交通渋滞の緩和 ・大気汚染の改善	・地下鉄:8路線 約100km バス:約600km ・地下鉄との乗継割引 ・ハイブリッドバスなどの低公害車バス ・アイドリングストップ&スタートシステム付バス	・「バスのシステムをどうすればいいか悩んでいる」(2013.9.30 DONREとの打ち合わせ @DONRE) ・「バスネットワークの拡大・拡張を図る」(2013.8.29 交通局との打ち合わせ @DONRE)
III - 11	交通	パークアンドバスライド	・パーク&バスライド駐車場整備を行うことで、総合的な公共交通利便性向上を図る。(例:郊外型大型商業施設の駐車場を路線バスへの乗換拠点として活用し、都心部への通勤等に利用) ・バスターミナルの開発はPPPによるTODの手法で開発を行う。	・商業施設 ・ターミナル ・イオン1号店	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2018 ホーチミン市交通網健全化計画(交通局) ・H26 FS実施(日建設計総合研究所)	・輸送エネルギー効率の高い公共交通の利用者増加に伴うエネルギー、CO2排出量の低減 ・交通渋滞の緩和 ・大気汚染の改善 ・拠点となる店舗等への集客効果	・パークアンドライド駐車場を市民に情報発信し、パークアンドライドを推進(大阪市ホームページ)	・「過去にバイクから公共交通へのシフトは試みたが失敗した」(2013.8.29 交通局との打ち合わせ @DONRE) ・「バスのシステムをどうすればいいか悩んでいる」(2013.9.30 DONREとの打ち合わせ @DONRE)
III - 12	交通	バス高速輸送システム(BRT)の構築	接続バス、PTPS(公共車両優先システム)、バスレーン等を組み合わせることで、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステム	都心部		・輸送エネルギー効率の高い公共交通の利用者増加に伴うエネルギー、CO2排出量の低減 ・交通渋滞の緩和 ・大気汚染の改善	・地下鉄の代替の可能性について検討中	「BRT導入の計画がある」(2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)

## ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト

NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
III - 13	交通	CNGバスへの転換	ガソリンバスからCO2排出量が少ないCNGバスへの転換。			・CO2排出量の低減	・天然ガス自動車:市バス37台 ・ハイブリッド自動車:市バス29台 (H25.3末時点)	「CNGバス導入の計画がある」 (2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)
III - 14	交通健康	電動バイクの導入	ガソリンバイクからCO2排出量の少ない電動バイクへの転換を図るとともに、電動バイクの充電ステーションを設置し、利便性の向上を図る。	・商業施設 ・ターミナル	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2018 ホーチミン市交通網健全化計画(交通局) 2013-2014交通エネルギー分野における気候変動適応国家目標プログラムの実現にむけた技術支援策の提案(天然資源環境局) ・H25 中央復建FS報告書	・CO2排出量の低減 ・燃料費の低減 ・燃費改善による燃料コストの削減 ・大気汚染の改善	・急速充電器1台、倍速充電器10台設置	「バイクもどんどん増えている」 (2013.9.30 DONREとの打ち合わせ @DONRE)
III - 15	交通	道路緑化の促進	道路への植樹を促進する。	都心部 幹線道路		・大気汚染の改善 ・CO2の吸収 ・木陰の創出(ヒートアイランド対策) ・まちの景観形成	・主要な幹線道路での緑化の推進 ・中央分離帯の緑化、街園整備 ・阪堺電気鉄道軌道敷の緑化計画	「道路緑化は低炭素化につながる」(2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)



# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト

NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
IV-1	廃棄物管理	固形廃棄物発電	固形廃棄物の焼却余熱を利用した発電施設の導入。	タイバック固形廃棄物複合処理地区	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 稼働率2000t/日のごみ焼却処理施設(天然環境資源局 2013.5.15人民委員会) ・H26 FS実施(日立造船)	・最終処分場の延命化(廃棄物減量化) ・廃棄物の衛生的な処理 ・廃棄物からのエネルギー回収 ・売電収入 ・高温多湿の気候に合った処理方法	・全7工場で焼却処分を実施し売電 ※2012年度決算:約25億円(約2.8億kwh)	「固形廃棄物の焼却処理+発電システムの実現可能性の検討」(2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)  「処分場がひっ迫している」
IV-2	廃棄物管理	バイオガス発電	食糧残飯・木くず等の有機廃棄物を分別・収集し、メタン発酵システムによりバイオガスを回収、代替エネルギーとして供給。	・ビンディエン市場 ・第1区(計画中) ・第4区	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2014ホーチミン市内各所から排出される廃棄物からのバイオガスの再生実験、研究、再利用の促進、施設建設(商工業局 2013.5.15人民委員会) ・H25 FS実施(日立造船、サティスファクトリー) ・H26 JCM設備補助事業(日立造船) ・環境省補助(サティスファクトリー)	・最終処分場の延命化(廃棄物減量化) ・廃棄物の衛生的な処理 ・廃棄物からのエネルギー回収 ・売電収入	・あべのハルカスで生ごみからメタンガス生成  ※廃棄物の組成がホーチミン市と異なるため、大規模な事業展開は行われていない。	・「バイオの可燃分野の計画を進めている」(2013.10.1 DOSTとの打ち合わせ @DOST) ・「生ごみを分別して集め、適正処理だけでなくエネルギー回収できるようにしたい」(2014.4.16 ホーチミン市との政策対話 @大阪市)
IV-3	廃棄物管理	電子マニフェストによる廃棄物管理	排出事業者に対して廃棄物の種類・処理方法等の報告、収集運搬業者・処理業者に対して運搬・処理終了報告を義務づけ、排出事業者が収集運搬業者・処分業者に委託した産業廃棄物の処理の流れを把握し、不法投棄の防止・適正な処理の確保を図る。	全域	・環境省補助(サティスファクトリー)	・廃棄物適正管理 ・安全性の確保 ・不法投棄対策	・国として産業廃棄物のマニフェスト化実施	「IT技術を応用した有形固形廃棄物の管理」(2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
IV-4	廃棄物管理	生ごみ分別収集(及び中間処理)の受託	家庭から排出される有機系廃棄物の分別収集を行う。	・住宅地 ・第1区	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2014ホーチミン市内各所から排出される廃棄物からのバイオガスの再生実験、研究、再利用の促進、施設建設(商工業局 2013.5.15人民委員会) ・2013大規模案件形成可能性調査(第1区、BinhThanh区)(GEC) ・環境省補助(日立造船)	・最終処分場の延命化(廃棄物減量化) ・環境教育(市民啓発) ・廃棄物からのエネルギー回収事業や再資源化事業につなげることができる。 ・分別の種類が増えれば最終処分量の大幅な減量が期待できる。	・9種類の分別収集を実施。(生ごみは分けていない)	・「バイオの可燃分野の計画を進めている」(2013.10.1 DOSTとの打ち合わせ @DOST) ・「生ごみを分別して集め、適正処理だけでなくエネルギー回収できるようにしたい」(2014.4.16 ホーチミン市との政策対話 @大阪市)
IV-5	廃棄物管理	有害廃棄物分別処理	工場等から排出される有害な産業廃棄物の分別収集・処理の徹底・規制化	・工場 ・病院		・産業廃棄物、医療系廃棄物適正管理 ・安全性の確保	・法に基づき事業者を指導	「危険な廃棄物の処理対策等、進めていきたい」(2014.2.14 ワークショップ @HCMC)
IV-6	廃棄物管理	下水汚泥の減容と再利用	汚泥を焼却処理及び溶融し建築資材として再資源化	下水処理場		・最終処分場の延命化(廃棄物減量化) ・廃棄物の衛生的な処理 ・溶融処理後のスラグの再利用(舗装材)	・下水汚泥は、焼却処理や溶融処理を行っている。 溶融スラグは建設資材等に利用、焼却灰は全量埋立て処分。	「下水汚泥の焼却を廃棄物分野のプロジェクトに追加する」(2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)





# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
V-1	水資源管理	配水マネジメントによる水道改善事業	配水場の整備を含む配水マネジメントにより、市内の水圧を適正化し、水道水質を確保する。	全域	・MASTER PLAN FOR HCMC WATER SUPPLY SYSTEM UP TO 2025(ホーチミン市水道マスタープラン) ・Water Safety Plan(水安全計画) ※DOTほか関連部局により"Water Safety Steering Committee"を設置	・配水場の適切な整備により、水道システム全体における配水ポンプ動力エネルギーの最適化を図る。 ・市内の水圧の適正化により、顧客が各戸で所有する増圧ポンプ動力エネルギーの削減を図る。 ・安全な水道水の供給によりボトル水の消費を抑制し、ボトル水の製造・運搬にかかるCO2排出量を削減する。	・市内に3浄水場、11配水場を配置し、適切な配水マネジメントにより市内の水圧を適正に管理し、安全でおいしい飲料水を供給している。	
V-2	水資源管理	下水道台帳システムの整備(大阪市建設局職員派遣「ホーチミン市下水管理能力向上プロジェクト」の活動の一部)	管渠等下水道資産を適正に管理する。	第1区ベンゲー地区	ホーチミン市水環境改善計画(第2期)	・適切な資産管理(管渠等)の実現による維持管理等の効率化	・下水道台帳システム整備済	「浸水ソフト対策(浸水想定区域図の作成、警報システムの開発)を実施したい」(2014.3.来日研修 @大阪市)
V-3	水資源管理	外水の浸入防止	堤防及び調整池の整備	・第4区西岸 ・第4区南岸 ・浸水常襲地区(Nha Be県など)	ホーチミン市における気候適応計画	・洪水被害の緩和	・調節池の建設 ・河川護岸改修 ・公園・学校などの敷地に雨水を貯める流域貯留施設を整備 ・防潮堤、防潮扉、水門の整備(総延長60km、防潮扉360基、水門8基)	「堤防、潮止堰、分散型調整池を整備」「4区の南岸は外水対策がなされていない」(2014.8.21 ワーキンググループ @REXホテル)
V-4	水資源管理	土地の嵩上げ	海拔ゼロメートル地帯など低地の市街地を盛土による土地の嵩上げを行う。	・第7区 ・浸水常襲地区(第4区、Nha Be県など)	・ホーチミン市における気候適応計画(新港湾施設、産業地区、近隣住区の開発) ・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム	・洪水・高潮被害の防止 ・安全な市街地の形成	・1960年頃、まち全体の盛土を実施。	「Nha Be県については、雨季や満潮時に浸水が発生する可能性が高い地区」(2014.2.13 CCBとの打合せ @CCB)
V-5	水資源管理	ポンプ、防水扉等の整備	ポンプ、防水扉等を整備する。	浸水常襲地区にある建物等	・ホーチミン市における気候適応計画(新港湾施設、産業地区、近隣住区の開発) ・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム	・海面上昇等の気候変動などによる洪水・高潮による被害の防止 ・安全な市街地の形成	・抽水所(ポンプ場)の整備 ・局地排水用マンホールポンプの設置 ・大雨時、避難時間を稼ぐため、地下鉄駅出入口に止水パネル設置	「Nha Be県については、雨季や満潮時に浸水が発生する可能性が高い地区」(2014.2.13 CCBとの打合せ @CCB)
V-6	水資源管理	雨水貯留施設	都心部における雨水を貯留する貯水池の整備	浸水常襲地区(第4区、Nha Be県など)	・2014-2015 HCMC第4区及びNhaBe県の気候変動統合マスタープランの開発(気候変動対策局) ・ホーチミン市における気候適応計画 ・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015トゥドック区ゴーユア地域に建設予定の調整池の設計図作製及び建設(洪水被害対策センター)	・洪水の防止 ・安全な市街地の形成 ・貯留した雨水を再利用した地盤沈下対策	・校庭貯留や建物地下への貯留施設設置	「Nha Be県については、雨季や満潮時に浸水が発生する可能性が高い地区」(2014.2.13 CCBとの打合せ @CCB) 「雨季の雨水の活用や地盤沈下対策を支援していただきたい」(2014.2.14 ワークショップ @HCMC)

# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
V-7	水資源管理	ハザードマップの策定	洪水等による浸水想定区域や被害程度に加え、避難経路・避難場所など災害時における避難に必要な情報を図示したハザードマップの策定。	浸水常襲地区(第4区、Nha Be県など)	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2014-2015 ホーチミン市と周辺地域における豪雨時及び高潮時の際の陸上交通網と水上交通網の安全確保、状況把握、被害対策、警報の発令(公安警察)	・被害の軽減化	・防災情報マップ(津波・水害)	浸水ソフト対策(浸水想定区域図の作成、警報システムの開発)を実施したい(2014.3.来日研修 @大阪市)
V-8	水資源管理	漏水改善	効率的な漏水改善の推進	ホーチミン市水道総公社(SAWACO)給水区域	・MASTER PLAN FOR HCMC WATER SUPPLY SYSTEM UP TO 2025(ホーチミン市水道マスタープラン) ・Water Safety Plan(水安全計画) ※DOTほか関連部局により"Water Safety Steering Committee"を設置	・漏水低減による水利用の合理化 漏水率約35%(2013年)	・漏水率 約6%	「2. 可能性 水資源管理」(2014.2.14 ワークショッププレゼン資料 @HCMC)
V-9	水資源管理	安定した取水場の確保	現在の水源であるサイゴン川、ドンナイ川のそれぞれ上流に位置するチーアン湖、ダウティエン湖からの水源開発	ホーチミン市水道総公社(SAWACO)給水区域	・MASTER PLAN FOR HCMC WATER SUPPLY SYSTEM UP TO 2025 (ホーチミン市水道マスタープラン) ・Water Safety Plan (水安全計画) ※DOTほか関連部局により"Water Safety Steering Committee"を設置	・水道水質の改善	・導・送・配水管延長 約5,200km ・浄水場所3箇所 ・1日標準給水能力 2,430,000m <sup>3</sup>	「取水場を上流に移動させ、ザウティエン貯水池、チアン貯水池から取水できるように導水管の増設を検討」(2014.8.21 ワーキンググループ @REXホテル)
V-10	水資源管理	節水型機器の普及促進	節水型機器を普及させることにより、上水使用量の削減を図る。	・ホテル ・オフィス ・住宅	水資源の有効活用や水質汚染防止にも資する低炭素節水事業(H25 MUMSS)	・水不足の緩和	・節水機器への普及促進	「飲料水の不足」(2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
V-11	水資源管理	排水処理・再利用(浄化装置など)	下水・雨水等をろ過・減菌し、工業用水、トイレ用水や洗浄水などに再利用する。	第4区 Nha Be県 工業団地	2014-2015 HCMC第4区及びNhaBe県の気候変動統合マスタープランの開発(気候変動対策局)	・水不足の緩和		「排水処理の後、水を再処理して使えるか」(2013.9.30 DONREとの打ち合わせ @DONRE)
V-12	水資源管理	雨水再利用(浄化装置など)	貯水・浄化装置の導入を通して雨水を貯水・浄化することにより、水道水・トイレ用水・洗浄水・散水用水などへの利用を促進する。 貯水による洪水発生抑制も期待される。	第4区・Dang Tran Con小学校(モデル的に取り組むパイロット事業) Nha Be県 工業団地	2014-2015 HCMC第4区及びNhaBe県の気候変動統合マスタープランの開発(気候変動対策局)	・上水利用量の減少に伴うランニングコストの削減 ・水不足の緩和	・雨水貯留タンク普及促進 助成制度 ・雨水の流出抑制及び雨水の利用を目的とした雨水貯留タンクを設置する市民等に対し、助成金を交付 雨水浸透阻害行為に対する法規制 ・開発者への流出抑制対策の義務化(校庭等を利用した雨水貯留、建物地下への貯留施設設置等)	「雨季の雨水の活用を支援してほしい」(2014.2.14 ワークショップ @HCMC) 「第4区のDang Tran Con小学校に約60m <sup>3</sup> の雨水貯留槽を設置し、水道水代わりに利用する計画がある。約3割の水道使用量削減効果を見込んでいる」(2014.7.10 HCMC第4区現地視察)
V-13	水資源管理	透水性舗装の整備	都心部の道路に透水性舗装を施し、雨水等による地下水涵養を促進する。	都心部	ホーチミン市における気候適応計画	・雨水を地中に浸透させることで、下水処理量を緩和	・道路や駐車場への透水性舗装の施工	「2. 可能性 水資源管理」(2014.2.14 ワークショッププレゼン資料 @HCMC)
V-14	水資源管理	市場における洗浄水の雨水利用	市場において、床洗浄する際、現状、水道水を利用していることに替えて、貯水した雨水を利用する。	市場		・水道使用量の低減 商品を床に陳列していない場合、床洗浄の洗浄水は水質管理する必要がない。	・中央卸売市場では水道水および工業用水を利用し床洗浄を行っている。	「市場の床洗浄に雨水を使用することはできるか」(2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)

# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
VI-1	農業 エネルギー	再生可能エネルギーを利用した節水ポンプの導入	再生可能エネルギーを利用した節水ポンプの導入	<u>Cu Chi</u> 県 <u>Dong</u> 運河地域 (10ha規模の農地)	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2014再生可能エネルギーを使用した地下水汲み上げ設備の利用及び、現代価額に基づいた節水モデルの構築(農業農村開発局)	・光熱費の削減及びCO2排出削減		「再生可能エネルギーを利用したポンプ設備による農業用節水散布のモデル実施」 (2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)
VI-2	農業	気候変動に対応した農作物の品種開発	品種改良などにより、気候変動の影響を受けない新たな品種を開発	農村地区	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 気候変動の悪影響を受けた森林地帯に適応可能な植物の新種改良研究と実験(農業農村開発局)	・農地(緑地)の保全 ・農業における新たな収益源の創出	・大学や研究機関での研究開発	「農業開発局の観点からみると、新品種の開発などがプロジェクトの1つになりうる。」 (2014.7.9 HCMCとのワーキンググループ @DONRE)  「プロジェクトでは品種改良も認められるのか」(2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)
VI-3	農業 土地利用	植樹による土砂崩れ防止	河川の堤防への植樹により河岸の土砂崩れを防止する。	・ <u>Binh Thanh</u> 区28群 ・ <u>カンヤ</u> ー県	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 カンヤー県における岸壁崩落地域の植樹事業(農業農村開発局)	間伐更新や捕植などの適正な管理により、CO2吸収量の増加	・港湾緑地の維持管理 ※河川区域内の植樹は許可が必要(河川法第27条1項)	「サイゴン川堤防への植樹による土砂崩れ防止」(2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料@大阪市)
VI-4	農業	家畜糞尿によるバイオガス発電	家畜糞尿を嫌気発酵させてメタンガスを回収し、そのガスをコージェネレーションユニットのエネルギー源として利用し、発電する。	農村地区		・光熱費の削減及びCO2排出削減 ・売電収入		「家畜糞尿によるバイオガス発電の技術は適用できるか」 (2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)
VI-5	農業	農村地区における太陽光発電	住宅・施設等が散在している地区において、個別に太陽光発電により電力を供給する。	農村地区	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 ホーチミン市における再生可能エネルギー開発計画(商工業局) 2012-2013 100世帯による太陽光エネルギー発電の電力利用実験と研究、応用(商工業局)	・光熱費の削減及びCO2排出削減 ・売電収入 ・購入から維持管理、リサイクル、廃棄までを通したライフサイクルコストでみた場合の日本製機器導入の優位性	・夢洲メガソーラー ・屋根貸し	「個別の住居・施設等で太陽光発電は適用できるか」 (2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)
VI-6	農業	農薬・肥料の使用量の削減	農薬・肥料の使用量を削減	農地			・法令に基づき、販売及び使用の規制 ・大阪エコ農産物認定制度	「農薬・肥料の使用量の削減は低炭素化につながる」 (2014.8.22 DONREとの打ち合わせ @DONRE)

# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
VII - 1	健康	病院の医療関係者の人材育成	医師等の医療従事者を一定期間来日させ、最新の医療技術を習得	新病院開設時の医療従事者等	JICAのプロジェクトにより新病院建設予定	・医療体制の改善	・大阪市立大学病院での医療従事者の受け入れ	「病院では1つのベッドに4人の患者が寝かされていることがある。」(2014.8.21 ワーキンググループ @REXホテル) 「感染症に関するスタッフの能力向上、医療施設の整備」(2014.8.21 保健局との打合せ @REXホテル)
VII - 2	健康	・異なった発生の仕方をしている従来の病気への対策 ・新たな感染症等対策 ・外来種対策 ・疾病率の低減	・新たな感染症等の調査、救急医療体制の整備など ・ホーチミン市で特に疾病率の高い病気の発生の低減	全域	・2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム 2013-2015 気候変動が原因となる可能性のある疾病、疾患の調査、環境評価及び、季節性疾病、伝染病の流行の可能性とリスク調査(保健局)	・市民の健康と安全の確保	・医療体制の確保	「気候変動に伴い、風疹など、本来の病気が異なった形で発生している」(2014.7.9 HCMCとのワーキンググループ @DONRE)
VII - 3	健康 水資源管理 廃棄物管理	病院の衛生管理の改善と医療系の排水や廃棄物の適正処理	病院内の衛生的環境の向上を図るとともに、感染性の恐れのある排水や廃棄物を適正処理することにより、患者や周辺地域の住民の健康影響を防止	全域		・患者の健康保護 ・病院周辺の河川等の公共水域の水質保全と、周辺住民の健康保護	・法、条例に基づく排水等の規制	「排水処理の後、水を再処理して使えるか」(2013.9.30 DONREとの打ち合わせ @DONRE)

## ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト



NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
VIII - 1	工業	キルン(窯)運用技術の向上	環境配慮型燃料の使用及び余熱や廃材の再利用	工場		<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量の低減</li> <li>余熱利用</li> </ul>		「生産技術の改善、環境配慮型燃料の使用、廃品・廃材の利用」(2014.8.21 ワーキンググループ資料 @REXホテル)
VIII - 2	工業	工場、工業団地敷地内の緑化	工場や工業団地敷地内を緑化し、	工場及び工業団地		<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2吸収量の増加</li> <li>良好な景観の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令に基づき緑地面積率を規定</li> </ul>	「工場・工業団地敷地内の緑地の拡充」(2014.8.21 ワーキンググループ資料 @REXホテル)

# ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト

NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
IX-1	建設	環境配慮型建築へのインセンティブの導入	環境に配慮した建築物に容積率を割り増しして付与することで、建築物による環境負荷の低減を促進	都心部		<ul style="list-style-type: none"> <li>行政の支出を抑えながら環境施策を実施</li> <li>光熱費の削減及びCO2排出削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合設計制度(環境配慮型容積ボーナス制度)</li> <li>CASBEE大阪による表彰制度</li> </ul>	「環境に配慮した施設を作る場合に容積率ボーナスを付与する制度の提案を受けている」(2014.8.20 DPAとの打ち合わせ @DPA)
IX-2	建設 エネルギー	省エネ建材の導入	断熱性、気密性の高い建材を使用することにより、空調システムの効率性をあげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設</li> <li>住宅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム</li> <li>2013-2015 都市生活における省エネ、CO2排出量削減方法の提案と実行、各世帯における省エネモデルの構築、キャンペーン活動の実施(商工業局)</li> </ul>	断熱効果の向上による光熱水費の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>CASBEE大阪</li> <li>グリーン調達方針に基づくリサイクル材料等の使用推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生産活動、生活レベルを確保しながら電力使用量の低減をめざすため、適切な省エネルギー技術の導入を進める」(2013.10.21 シンポジウムプレゼン資料 @大阪市)</li> <li>「省エネ型材料の導入」(2014.8.21 ワーキンググループ資料 @REXホテル)</li> </ul>
IX-3	建設	建築物の長寿命化	建築規則への新基準の導入による建築物の耐久性改善等	建設現場		建築物の長寿命化による低炭素化	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共建築物の指針</li> <li>CASBEE大阪での評価</li> </ul>	「気候変動適応策 - 建築規則の改正」(2014.8.21 ワーキンググループ資料 @REXホテル)
IX-4	建設	省エネ型建設機械の導入	ハイブリッド建設車両等を導入する	建設現場		<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量の低減</li> <li>燃料費の低減</li> <li>燃費改善による燃料コストの削減</li> <li>大気汚染の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン調達方針に基づく排出ガス対策型建設機械の使用推進</li> </ul>	「温室効果ガスの発生源 - エネルギー消費」(2014.8.21 ワーキンググループ資料 @REXホテル)
IX-5	建設 水資源管理 廃棄物管理	排水と廃棄物の有効利用	建設現場からの排水や汚泥、建築廃材等の再生利用	建設現場		<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量の低減</li> <li>廃棄物等排出抑制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン調達方針に基づく再生しやすい材料の使用推進</li> <li>建設リサイクル法に基づく分別及び再資源化</li> </ul>	「温室効果ガスの発生源 - 水利用、排水、固形廃棄物及び汚泥の管理」(2014.8.21 ワーキンググループ資料 @REXホテル)

## ホーチミン市の気候変動対策実行計画に対応するプロジェクト案

凡例:  → 着手しているプロジェクト  
 → すでにホーチミン市で一部実施されている又は、  
 大阪市として優先実施を提案しようとしているプロジェクト

NO	分野	プロジェクト	プロジェクト概要	ターゲット (下線有りは事業が具体化又は計画が存在するもの)	ホーチミン市の関連計画等	プロジェクトを進める具体的なメリット (ホーチミン市の発展に関するもの、企業の発展に関するもの等)	大阪市の状況	ホーチミン市からの要望
X-1	観光交通	水上交通網の整備	地上交通の代替手段として船舶を運航	河川及び運河	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年までのホーチミン市地域気候変動対策プログラム</li> <li>2011-2012 気象状況による水上運輸網地図 (科学技術局)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地上交通量の緩和</li> <li>観光船等の新たな観光資源の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水上バスの運行</li> <li>水上交通ルール制定</li> <li>公共船着き場の整備</li> </ul>	「水路は貨物輸送のみで、人の輸送には使われておらず、十分に活用されていない」 (2014.8.21 ワーキンググループ @REXホテル)